



# 道

学校教育目標  
ともに学び、  
心豊かで  
たくましい  
子どもの育成



## 外国語活動とふるさと教育

校長 深川 善弘

先月号の「学校だより」で、本校で実施している外国語活動の内容を紹介しました。現在、中央教育審議会では、小学5年生から英語を教科化し、現行の外国語活動を、5年生から3年生に引き下げることが検討されています。文部科学省では、平成32年度に行われる東京オリンピックを見据えて、グローバルな人材を育成するために、より早期から外国語や文化に親しむ方向へと教育内容を変える動きが進んでいます。社会や経済のグローバル化が急速に進展することを考えれば、「時代の要請」として必要な動きなのだろうと思います。

一方、少子高齢化が進む中で、「ふるさと教育」の重要性がますます強調されるようになりました。ふるさとの自然、歴史・文化、産業等について学び、理解を深め、ふるさとの誇りと愛着を育むことが求められています。本校でも、郷土「滑川」について学ぶ活動をたくさん取り入れています。先日も、地元の漁業協同組合婦人部の方々に来校していただき、6年生が富山湾の海の幸、フクラギやカワハギの調理に挑戦しました。これは、滑川市教育委員会が進める「食育」事業の一環として実施されたものですが、食生活の見直しとともに、郷土の伝統を伝え、食文化を継承することに通じる「ふるさと教育」になっていると思います。

「グローバル化の進展に伴う教育活動」と「ふるさとの誇りと愛着を育む教育活動」、一見すると相異なる方向性のように思えるのですが、次代を担う人材を育成するためにはこの両者を統合した見方、考え方が重要になります。グローバル化が進む中で、異文化の相手と「話し合い、違いや共通点を知り、分かり合う」ためには、自らの座標軸となる郷土「滑川」、富山、日本についての理解がないと、話し合う内容が薄く、違いや共通点を知ることにはなりません。そもそも「分かり合う」目的があやふやになってしまいます。

小学校の段階では、郷土「滑川」について理解を深め、ふるさとを思う心を培うとともに、外国の言語や文化に親しむ活動を通して、地球や世界とのつながりの中で、日本や郷土「滑川」を捉えることができるように工夫することが大切だと思います。



## アクションプランの取組経過について（お知らせ）

3学期の取組の結果をお知らせします。

（3月8日現在）

	重点課題	数 値 目 標	目標達成率
1	本に親しむ児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・85%以上の児童が、年間目標冊数を読む。 低学年60冊以上 中学年30冊以上 高学年20冊以上</li> <li>・85%以上の児童が「おすすめの本」の年間目標冊数を読む。 低学年10冊以上 中学年 8冊以上 高学年 5冊以上</li> </ul>	3学期末の読書冊数達成率 (低)94.0%(中)97.9% (高)97.1% <b>(全)96.3%</b> 「おすすめの本」達成率 (低)98.3%(中)97.2% (高)93.5% <b>(全)94.9%</b>
2	気持ちのよいあいさつや言葉遣いをする児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつについて自分の目当て達成者80%以上</li> <li>・丁寧な言葉遣いについて目当て達成者80%以上</li> </ul> ※ いずれも自己評価	あいさつ (全) 96.7% 言葉遣い (全) 95.7%
3	進んで体力づくりに取り組む児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなでチャレンジ富士山3776」の達成者80%以上を目指す。</li> <li>・縄跳びの学年到達目標の達成者80%以上を目指す</li> </ul>	雄山頂上までの達成率 (全) 91.7% 縄跳びの達成率 (全) 84.3%

### 【考察及び今後の取組】

#### 【読 書】

読書の目標冊数を超えた児童は、全体で96%となり、目標の85%をクリアしました。低・中・高学年とも、94%、98%、97%と2学期までの達成率から大きく伸びました。100%達成した学級も6学級もありました。これは、2学期の反省から、担任が声をかけたり、一緒に図書室に行き読書をしたり、児童に寄り添って読書を意識させた結果と考えます。

また、1学期からの課題だった「おすすめの本」の達成率が95パーセントとなり、3学期になって初めて目標を超えました。低・中・高学年とも、98%、97%、94%となり、また100%達成した学級も8学級もありました。これも、2学期の反省から、図書委員が、校内放送でおすすめの本を読んでみたくなるように紹介したり、各学級に「おすすめの本」を一定期間置き、担任が声をかけたり、児童同士紹介し合ったりした結果と考えます。

良書を多く読む習慣が、学力に影響することを考えても、ただ、目標を示すだけでなく、一緒に図書室に足を運ぶ、身の回りに良書をそろえる、なかなか自分で読まない児童には読み聞かせをする等、周りの働きかけが大事です。せっかくの読書習慣をずっと継続して行ってほしいと思います。

#### 【あいさつ・言葉遣い】

あいさつの自己評価は96.7%で、2学期と同じでした。おむすび委員会と安心・安全さわやか委員会とで毎朝行っている児童玄関でのあいさつ運動が、功を奏しているようです。また、3学期は6年生が「卒業プロジェクト」として、朝の挨拶を呼びかけてくれました。寒くなると朝の挨拶の声が小さくなりがちですが、6年生のおかげで意識は高まってきました。これからも、この意識を継続させたいです。

言葉遣いの自己評価は、95.7%と、2学期に比べると若干数値が上がりました。丁寧な言葉遣いとしての「です、ます」はもちろん、「相手を思いやる言葉」を常に使おうとする意識も浸透してきたようです。乱暴な言葉を使ってしまう児童はそれでもいますが、学校や家庭で大人が意識して相手を思いやる言葉を使うことで、子供の意識が高まるように思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

#### 【体力づくり】

3学期の到達目標は、富士山頂（3776M）まで到達することでしたが、どの学団でも高い達成率となりました。これは、2学期の目標（立山山頂3015m）から3学期の目標（富士山頂3776m）が近かったことや、各教室の取組がきちんとなされるようになり、運動することが習慣化されたことによると思われます。

縄跳びについては、低・中学年で達成率に伸びが見られ、全体として十分目標を達成できました。しかし、高学年は他の学団よりも数値が低く、これは、今まで縄跳びにあまり親しんでこなかったことで苦手意識をもっている児童がいることや卒業に向けての取組で多忙なため、時間的に難しかったなどの理由が考えられます。目標の設定においては、児童の実態（技能、取組期間等）を十分考慮した上で設定する必要があると思いますが、今年度は、縄跳びを取り入れた初年度であり、手探りの状態であったことも要因の一つだと思います。しかし、今年度の取組を通して児童の意識が高まってきているので、今後も継続することで、児童の体力向上や縄跳び技術の向上につながっていくと思います。また、アクションプランとは別に、なかよし班（異学年による縦割りグループ）で大縄跳びに取り組んだことも体力向上に向けて有効な手立てだったので、これも継続していきたいです。

今後も一人一人が目標達成できるよう励ましていきたいです。ご協力をお願いします。